

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

(1) 学生の確保の見通し

共創学部を設置する学科は1学科（共創学科）とし、その入学定員は105名とする。この入学定員を長期的かつ安定的に確保することができることを示すために、本学の一般入試の状況を踏まえ、高等学校及び中等教育学校（以下「高等学校等」という。）の生徒及び進路指導担当教員に対してアンケート調査を実施し（調査期間：H29.1~H29.2）、その結果に将来的な人口変動を加味して、データの分析を行った。

① 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

平成28年度九州大学入学者選抜試験における志願者数上位50校（福岡県：21校、九州（福岡県を除く）：19校、九州外：10校）に在籍する2年生を対象にアンケート調査【資料1】を実施した。質問紙のみなし回収率は76.2%（11,652枚／15,300枚、ただし送付時の都合で1枚＝生徒1人に必ずしも対応していないので、便宜的な割合である）で、回答があった高等学校等の割合は82%（41校／50校）であった。

アンケート調査の結果、大学等への進学を希望すると回答した者10,657人のうち、本学部に「入学したい」と回答した者は432人（4.1%）おり、「進学先の一つとして考えたい／興味がある」と回答した4,985人（46.8%）と合わせると、半数以上の5,417人（50.8%）が本学部への入学に関心を示した。【表1】

表1 高校生の入学意向

水準	度数	割合
1.入学したい	432	4.1%
2.進学先の一つとして考えたい／興味がある	4,985	46.8%
3.入学したいとは思わない	5,240	49.2%
合計	10,657	100.0%

また、生徒への調査と同時に、対象高等学校等の進路指導担当教員に対してもアンケート調査【資料1】を実施し、回収率は58%（87枚／150枚、依頼時の都合上各校3枚を配布）、回答があった高等学校等の割合は76%（38校／50校）であった。

アンケート調査の結果、本学部への進学を生徒に「積極的に勧めたい」という回答は25.0%あり、「候補として検討を勧めたい」等も含めると、95.2%が進路として本学部への進学を勧めることに前向きであった。【表2】

表 2 進路指導教員の意向

水準	度数	割合
1.積極的に勧めたい	21	25.0%
2.候補として検討を勧めたい	50	59.5%
3.どちらかといえば勧めたい	9	10.7%
4.勧めない	4	4.8%
合計	84	100.0%

② 定員充足の見込み

上記①のとおり、高等学校等側からは有望な進学先として評価されていると言える。仮に、「入学したい」と回答した生徒の 10%、「進学先の一つとして考えたい／興味がある」と回答した生徒の 3%が実際に本学部に出願すると仮定した場合、これらの生徒だけで $432 \times 10\% + 4985 \times 3\% = 43.2 + 149.55 = 192.75$ 人の出願が見込まれる。本学の平成 28 年度入学者選抜試験において、調査対象高等学校等からの志願者数は全体の 54.4%を占めた。この比率で割り戻せば、調査対象以外の高等学校等も含む全体では $192.75 \div 0.544 \approx 354.3$ 人の出願が予測される。この場合、入学定員 105 人に対し、 $354.3 \div 105 \approx 3.37$ 倍の志願倍率が見込まれる。

また、国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)』【表 3】によると、九州・沖縄各県の 15~19 歳人口の合計は、平成 27 年の 704,578 人から、平成 37 年には 638,175 人へと減少(9.4%減)すると予測されている。同程度の志願者数の減少があった場合でも志願倍率は 3.05 倍程度になると考えられる。

以上から、「入学したい」と回答した者の 10%しか実際に出願しない等の厳しい仮定を置き、長期的な人口減少を考慮したとしても、本学部の選抜試験を行ううえで十分に定員を充足できると考えられる。

表 3 15~19 歳人口の推計(九州・沖縄各県抜粋)

	2015 (H27) 年	2020 (H32) 年	2025 (H37) 年
福岡県	244,823	230,352	226,260
佐賀県	42,372	39,416	36,427
長崎県	65,985	59,434	54,660
熊本県	85,644	80,705	77,773
大分県	53,473	50,015	47,956
宮崎県	53,125	49,396	47,524
鹿児島県	77,730	73,709	70,243
沖縄県	81,426	78,803	77,332
合計	704,578	661,830	638,175
2015 (H27) 年 との増減率		93.9%	90.6%

③ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金の額は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に則り、本学が定める「国立大学法人九州大学における授業料その他の費用に関する規程」に基づき設定する。

(2) 学生の確保に向けた具体的な取組状況

本学部では、高校生やその保護者、進路指導担当教員を含む高等学校等教員などに対して、本学部の趣旨や特色、育成する人材像等の理解を促すため、上記アンケート調査の分析結果をうまく活用しながら、積極的かつ効果的に広報活動を行っていく。

具体的には、本学部ウェブサイトでの情報公開をはじめ、新聞や受験関連サイト等での広告、時宜に応じたパンフレットの作成・配布、本学が主催または参加する進学説明会やオープンキャンパス等における説明・模擬授業の実施等を予定している。

また、アンケート調査の分析結果から見える対象者毎の特長、例えば、生徒への調査からは、「英語教育」(43.7%)や「海外留学」(36.1%)に関心が集中する傾向が見られたので、それらについて詳細に説明するとともに、それ以外の特色についても理解を促し、本学部の特色を偏りなく把握できるよう留意する。進路指導担当教員への調査からは、「学問分野混合・融合教育」(56.3%)や「他者と協力して課題解決に取り組む学修等」(43.7%)等への期待が見られたが、生徒の関心が高い「英語教育」(29.9%)や「海外留学」(20.7%)への関心が低い傾向にあるため、丁寧に説明を行っていくとともに、それ以外の特色についても理解を促し、適切な進路指導の一助となるように留意する。【資料2】

さらに、後述する企業等への調査において、多くの企業等が本学部の趣旨に賛同し、卒業生の採用に強い興味を持っていること等についてもアピールしていく。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学部は、現代社会が直面している、個別の学問だけでは解決することが困難な問題に対して、自ら課題を設定してその解決に至るアプローチを「構想」し、異なる専門や知識をもつ多様な人々と「協働」し、これら構想と協働の学びや海外留学を通じて得られる「経験」をもとに、グローバル社会において新たな知や価値を生み出す「共創」の専門性を身につけた人材、すなわち、「課題に応じ自ら必要なことを学ぶ」態度や志向性を基盤に、多様な学知を組み合わせて課題解決のための知を創造し、それを社会に活用していく「共創的課題解決力」を身につけた人材を育成する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学の平成27年度(2016年春)卒業生の就職実績上位100企業・自治体等と、九州経済連合会の会員企業(単純な重複や、本社と九州支社と言った重複もあり得る)の採用担当者を対象にアンケート調査【資料1】を実施し(調査期間:H29.1~H29.2)、回答率は36.2%(372/1024企業・自治体等、ただし重複のため368企業・自治体等と社名未記入1)であった。

アンケート調査の結果、31.2%の企業等が本学部の卒業生を「積極的に採用したい」と回答した。「採用したい」(21.4%)「採用を検討する」(41.4%)を合わせると、94%の企業等が、本学部が輩出する人材の採用に興味を抱いている。【表4】

なお、「採用は考えない」と回答した企業等(6%)の理由の大半は、企業側の事情(現在新卒採用を考えていない、業種・職種の特殊性のため等)によるものであった。

表4 企業・自治体等の採用意向

水準	度数	割合
1.積極的に採用したい	114	31.2%
2.採用したい	78	21.4%
3.採用を検討する	151	41.4%
4.採用は考えない	22	6.0%
合計	365	100.0%

また、表5にみられるとおり、本学部が育成する人材は幅広い業種の企業等から求められていることがわかる。

表5 業種別の採用／非採用割合

業種	採用したい等	採用は考えない	該当企業数
農業、林業	100.0	0.0	8
建設業	90.7	9.3	54
製造業	93.6	6.4	78
電気・ガス・熱供給・水道業	91.7	8.3	12
情報通信業	100.0	0.0	19
運輸業、郵便業	94.1	5.9	17
卸売業、小売業	100.0	0.0	45
金融業、保険業	100.0	0.0	29
不動産業、物品賃貸業	94.1	5.9	17
学術研究、専門、技術サービス業	87.5	12.5	8
宿泊業、飲食サービス業	100.0	0.0	6
教育、学修支援業	100.0	0.0	1
医療、福祉	75.0	25.0	8
複合サービス業	100.0	0.0	4
サービス業	91.7	8.3	12
公務	100.0	0.0	7
その他	84.4	15.6	32
合計	93.8%	6.2	357

企業等が本学部のどの点に興味を示しているかについては、「異なる視点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造(共創)できる人材の育成」(72.0%)、「文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成」(52.0%)、「社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修」(69.0%)が特に高く期待されていることが分かった。【資料2】

次に、本学部卒業生の就職について、平成 27 年度卒業生の実績を踏まえて推考する。

アンケートの回答があった企業等のうち、平成 27 年度卒業生の採用実績のある企業等が 77 あり、そのうち「積極的に採用したい」を選択した企業等が 22、「採用したい」を選択した企業等が 20、「採用を検討する」を選択した企業等が 31 であった。これらのうち、採用意向が強い順に 3 割、2 割、1 割の企業等が本学部卒業生を採用するとの厳しい仮定を置くと、 $22 \times 0.3 + 20 \times 0.2 + 31 \times 0.1 = 13.7$ 企業等が本学部卒業生を採用することとなる。これを、平成 27 年度卒業生の採用実績のある企業等数 (560) のアンケートにおける捕捉率 ($77 \div 560 \div 13.8\%$) で割り戻すと、 $13.7 \div 13.8 \div 99.3$ 企業等となる。本学部卒業後の進路としては、大学院への進学と企業等への就職が考えられるが、平成 27 年度卒業生の実績 (進学者 51.3%、就職者 40.6%) 【表 6】を踏まえ、本学部卒業生の半数が大学院へ進学し、半数が就職を希望すると仮定した場合、約 1.89 倍の求人倍率 ($99.3 \text{ 企業等} \div \text{就職希望者 } 52.5 \text{ 人}$) が見込まれる。

このように厳しい仮定を置いた場合でも、本学部卒業生の就職先は十分確保できると考えられる。

表 6 平成 27 年度学部卒業生の進路状況

(平成28年5月1日現在)

卒業者数	大学院(修士・博士前期課程)進学者数	就職者数	その他
2,666	1,368 (51.3%)	1,082 (40.6%)	216 (8.1%)

※()内は卒業者に占める割合

※「その他」は司法試験等国家試験準備、専門学校生、研究生等を含む。

自由記述では幅広い様々な業種・地域・規模の企業等から、本学部の趣旨について共感や期待が寄せられた。以下はいずれも、全体的な傾向を踏まえて典型的と考えられる記述の一部である。

「当社は新しい金融ビジネスに挑戦していますが将来の担い手となるべくポテンシャルを有する広い視野と自主性を持った前向きな学生を採用したいと思っていますので共創学部に大いに期待いたします。」(「積極的に採用したい」証券会社)

「まさに高等教育を受けた、文系・理系両方の考え方や方法論を身に付け、課題解決のできるグローバルな人材は待望の社会人・企業人となると思います。」(「積極的に採用したい」建設業)

「多様な価値観を持ち合せ積極的に社会の問題・課題に取り組む又は、発信する。チャレンジ精神にあふれる人材を期待し私達も積極的に採用させて頂きたいと存じます。」(「積極的に採用したい」小売業)

「グローバル化した社会に於いては、多様な知識を有した自立した人間の育成が必要。共創学部では、諸外国との交流も含め自分の意見をしっかりと発信できる人材を育成していただきたい。同時に問題発掘型の人材、責任感の強い人材の育成を望んでいます。期待しています。」(「採用したい」(テレビ局))

「共創学部の構想に強く共感いたします。複雑化する社会課題を解決するために新しいフレキシブルな発想法が求められるこれからの時代に合致した構想だと思います。社会解決課題に留まらずソーシャルグッドを「創造」する人材育成に期待します。カリキュラム内に、行政や企業という実際に社会課題に向き合ってるプレイヤーとの交流・協働を含ませるのはいかがでしょう。弊社も（中略）微力ながらできるだけのご協力をさせて頂きたいと思います。」（「採用したい」広告業）

「幅広い学問分野を学び、分野を横断した発想で主体的に課題を設定し、他者とコミュニケーションを取りながら、解決に取り組む人材を育成されようとする貴学のチャレンジに期待しています。」（「採用したい」製造業）

以上のことから、本学部が育成する人材は、幅広い業種の、多くの企業等が求めている人材であり、社会的・地域的な人材需要の動向に十分即したものであると言える。また、卒業生の就職先も十分に確保できると考えられる。

問7 共創学部が設置された場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 入学したい 2. 進学先の1つとして考えたい／興味がある 3. 入学したいとは思わない

ご協力ありがとうございました

九州大学共創学部に関するアンケート

(対象：高校2年生の進路指導を担当されている先生)

九州大学では、自ら課題を発見し、他者と協働して課題解決やイノベーションの創出に取り組むことのできるグローバル人材を育成するため、2018年4月に「共創学部」の設置を構想しています。本アンケート調査を通して、2018年に大学進学時期を迎える現・高校2年生の進路指導を担当されている先生のご意見を賜り、設置構想の参考とさせていただきたいと考えております。以下のアンケートへのご協力をお願い申し上げます。 ※構想内容の詳細は別紙リーフレットをご参照ください。

問1 共創学部の特色として特に期待するものをお選びください。(あてはまるもの3つまで○)

1. 人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育
2. 社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修
3. グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育
4. 語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育
5. 海外留学を組み込んだ教育
6. 外国人留学生と共に学べる教育環境
7. 文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成
8. 異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造(共創)できる人材の育成

問2 共創学部が設置された場合、生徒に進学を勧めたいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 積極的に勧めたい
2. 候補として検討を勧めたい
3. どちらかといえば勧めたい
4. 勧めない(理由: _____)

問3 共創学部について、ご要望、期待等がございましたら記入ください。(自由記述)

ご協力ありがとうございました

九州大学共創学部に関するアンケート

(対象：採用ご担当者様)

九州大学では、自ら課題を発見し、他者と協働して課題解決やイノベーションの創出に取り組むことのできるグローバル人材を育成するため、2018年4月に「共創学部」の設置を構想しています。本アンケート調査を通して、将来卒業生の採用をご検討いただく皆様のご意見を賜り、設置構想の参考とさせていただきたいと考えております。以下のアンケートへのご協力をお願い申し上げます。 ※構想内容の詳細は別紙リーフレットをご参照ください。

問1 貴社（機関）名 _____

問2 本社（機関）所在地 _____

問3 貴社（機関）の主たる業種をお選びください。（あてはまるもの1つに○）

1. 農業、林業
2. 漁業
3. 鉱業、採石業、砂利採取業
4. 建設業
5. 製造業
6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業
8. 運輸業、郵便業
9. 卸売業、小売業
10. 金融業、保険業
11. 不動産業、物品賃貸業
12. 学術研究、専門、技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業
14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学修支援業
16. 医療、福祉
17. 複合サービス事業
18. サービス業
19. 公務
20. その他（ _____ ）

問4 共創学部の特色として特に期待するものをお選びください。（あてはまるもの3つまで○）

1. 人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育
2. 社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修
3. グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育
4. 語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育
5. 海外留学を組み込んだ教育
6. 外国人留学生と共に学べる教育環境
7. 文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成
8. 異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造（共創）できる人材の育成

問5 共創学部が設置された場合、本学部卒業生の採用についてどのようにお考えですか。

（あてはまるもの1つに○）

1. 積極的に採用したい
2. 採用したい
3. 採用を検討する
4. 採用は考えない（理由： _____ ）

問6 共創学部について、ご要望、期待等がございましたら記入ください。（自由記述）

ご協力ありがとうございました

2018年4月、「共創学部」を設置

■ 入学者選抜 ■

入学定員	選抜方法		センター試験の利用	選抜予定時期	
105人	一般入試（前期） 65人		○	前期日程：2月下旬	
	特別入試（推薦） 10人		○	1次：1月下旬 2次：2月初旬	
	特別入試（AO） 20人		—	1次：10月初旬～中旬 2次：11月初旬	
	国際型入試 10人	特別入試（帰国子女）	若干名	—	2月下旬
		特別入試（私費外国人4月入学）	若干名	—	2月下旬
特別入試（私費外国人10月入学）		若干名	—	1次：2月中旬 2次：3月初旬	

※入学者選抜の詳細については、平成29年3月以降に公表予定。



いま 現在を、未来を、共に創る

九州大学は、記者会見を開き、2018年4月に12番目の学部として国際社会で活躍するグローバル人材を育成する学生定員105名の共創学部を設置する予定であると発表しました。記者会見で久保千春総長は、「新学部は、本学が実施している21世紀プログラムの成果と基幹教育の教養教育の重要性を踏まえています。ぜひ自らイノベーションを起こす意欲ある学生の応募を期待しています」と、また丸野俊一理事・副学長は、「異なる社会的背景を持つ他者と共に、新しい社会や価値を創る人材を育てます」と話しました。

1967年6月の歯学部設置以来、約50年ぶりに新たな学部を設置し、複雑・多様化するグローバル社会において、多様な人々との協働から異なる観点や学問的な知見の融合を図り、共に構想し、連携して新たな物事を創造する「共創」により新たなイノベーションの創出を担う人材の育成に取り組みます。

（新学部の設置については構想中であり、内容は今後変更する場合があります。）



記者会見の様子



【お問い合わせ】

九州大学学務部学務企画課

電話:092-802-5814 FAX:092-802-5990

Mail:gakikaku@jimu.kyushu-u.ac.jp

共創学部

School of Interdisciplinary Science and Innovation

2018.4
START

九州大学は2018年4月に、入学定員105人の「共創学部」の設置を構想しています。
この学部を卒業すると、「学士(学術)」の学位が授与される予定です。

■ 構想概要 ■

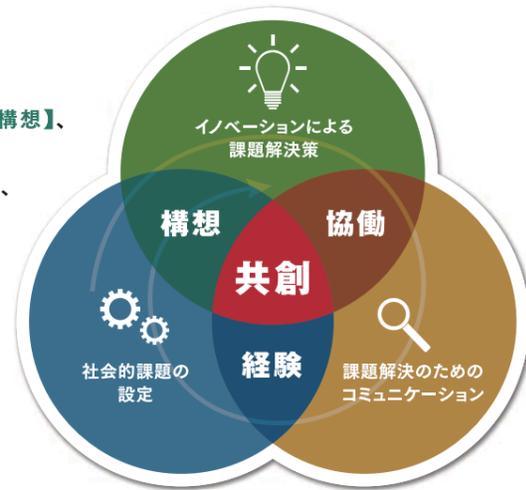
九州大学では、2001年度より「21世紀プログラム」において、自分の「やりたいこと・学びたいこと」の実現に向けて自ら学びを創り上げ、問題発見・課題設定とその解決能力に優れた「専門性の高いゼネラリスト」の育成に取り組んできました。また、2014年度には、「ものの見方・考え方・学び方」を学ぶ「基幹教育」を開始し、学び続けることを幹に持つ、未知な問題や状況にも果敢に

挑戦するスピリットと行動力を備えた「アクティブ・ラーナー」の育成に取り組んでいます。

21世紀プログラムで培ったノウハウと、基幹教育での「アクティブ・ラーナー」育成の実績を踏まえ、2018年4月に文理融合の「共創学部」を新設し、課題解決型人材の育成に取り組めます。

■ コンセプト ■

社会的課題の設定から課題解決策を考え【構想】、課題解決に向け他者と取り組み【協働】、構想から協働までの一連の【経験】を通じて、【共創】を目指します。



■ 育成する人材 ■

急速な社会変化から生じた複雑・多様な課題・問題は、単なる知識の蓄積や技術の改良だけでは立ち向かうことが困難であり、言語や文化、宗教、価値観、経済などの社会的背景を理解したうえで、自らの問題意識に基づき、分野横断的な発想をもって解決手段を見つけることができる人材が求められています。

共創学部では、人文科学、社会科学、自然科学の既存の学問分野を横断しながら文系・理系両方の考え

方や方法論を身に付け、国家・地域間の紛争問題や環境・気候変動など、地球規模の課題・問題をテーマとする学修を通じて、「自ら課題を発見し、他者と協働して課題解決やイノベーションの創出に取り組むことのできるグローバル人材」を育成し、将来、研究者や専門家、企業人として、国内外で活躍できる人材を社会に送り出します。

■ 幅広い学問分野－4つの領域(エリア)等 ■

様々な課題に対応する4つの領域(エリア)を設け、異なる学問分野を専門とする教員が指導します。
学生が自ら興味・関心をもった領域に関連する授業科目を自由に選択できる柔軟なカリキュラムを編成しています。

01 人間・生命エリア

生命の発生・進化や、人間の思考・認知・判断の仕組みなどを、生物学、認知科学、脳科学等を通して学びます。

02 人と社会エリア

意思疎通における言語の仕組みや、先史社会、多文化共生、社会における生活実践としての福祉、宗教観などを、社会学、文化人類学、コミュニケーション学等を通して学びます。

03 国家と地域エリア

国家や地域の歴史、特徴的な経済・社会現象、政治や経済面での関係性などを、政治学、経済学、史学等を通して学びます。

04 地球・環境エリア

地球がもつ資源や、地球環境の変化による災害、生命が環境に与える影響などを、地球惑星科学、社会・安全システム科学、基礎生物学等を通して学びます。



エリア横断

4つの領域(エリア)による学びの共通の基礎となり、さらには構想を発展させる役割を担う横断的な科目、例えばクリエイティブなアプローチを活用した思考法である「デザイン思考」や、新たな価値を引き出すためのデータ処理・分析などの「データサイエンス」、さらには地球的視野を学ぶ「グローバルヒストリー」等を履修することにより、課題・問題の解決に必要な知識・能力を身につけます。

■ 学びの特色 ■

① 文理を融合したカリキュラム

人文科学、社会科学、自然科学の既存の学問分野を横断しながら、文系マインド・理系マインドや多様な方法論を身につけさせ、実践的な課題に基づいた学修を行います。

② 協働学習(PBL/TBL*型学習)

グループでテーマについて議論しあう協働学習を取り入れ、他者と協働で学ぶことにより広い視野と柔軟な思考力、物事を色々な角度から捉える複眼的な洞察力を涵養します。

*PBL: Problem-Based Learning, TBL: Team-Based Learning

③ 習熟レベルに応じた英語教育

習熟レベルに応じた英語教育を初年次から実施し、世界や日本の時事問題を英語で学ぶことにより、現代の課題を意識し、常に最新の情報をグローバルな視野で入手する姿勢を涵養します。

■ 入学者選抜 ■

知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力や、主体性・多様性・協働性を持つ多様な学生を選抜するため、4つのタイプの入学者選抜を実施します。

*入学者選抜の詳細については、平成29年3月以降に公表予定。



④ 海外大学等への留学

大学間交流協定校をはじめ、海外大学等へ一定期間の留学を課し、国際体験を通じた国際理解・知識の拡大と、語学力やコミュニケーション力の向上を図ります。

⑤ Class Share

日本人学生と留学生が共に学ぶ教育環境(Class Share)を構築し、学生と教職員がアクティブに交流することにより、相乗的・協働効果を生み出すグローバル・ハブ・キャンパスの形成を図ります。

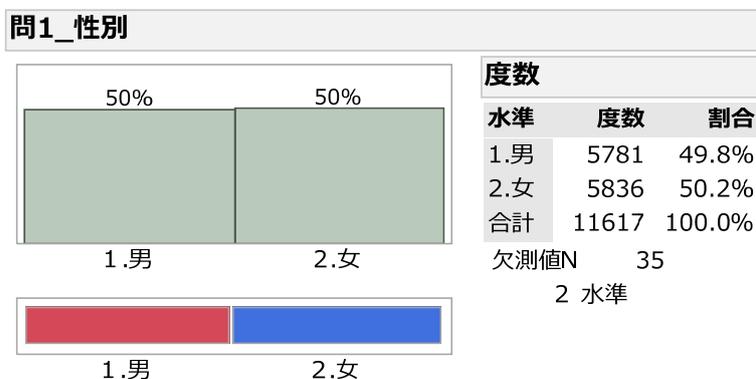
- 大学適応力を評価(AO入試)
- 主体的な活動実績などを評価(推薦入試)
- 国際経験国際コミュニケーション(国際型入試)
- 多角的な思考力を問う(一般入試)

1. 平成 28（2016）年度現在の高校 2 年生アンケート

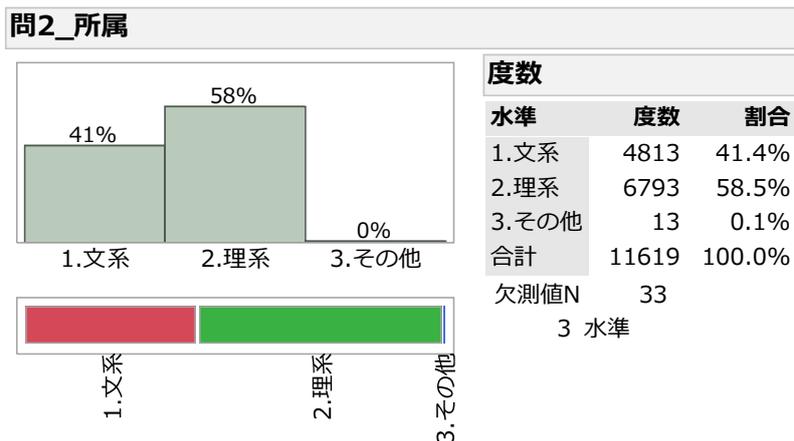
【調査概要】

平成 28 年度九州大学入学者選抜試験における志願者数上位 50 校（福岡県：21 校、九州（福岡県を除く）：19 校、九州外：10 校）に在籍する 2 年生を対象にアンケート調査を実施した。質問紙のみなし回収率は 76.2%（11,652 枚／15,300 枚、ただし送付時の都合で 1 枚＝生徒 1 人に必ずしも対応していないので、便宜的な割合である）で、回答があった高等学校等の割合は 82%（41 校／50 校）であった。

問 1 性別



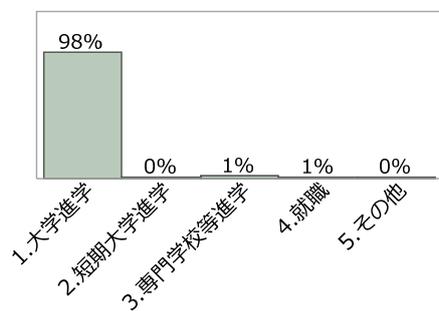
問 2 所属クラス（コース）



「3.その他」の回答のうち、具体的な記述が、3 年次文転（1 人）、SG 文系（1 人）、英語科（4 人）、文系 SGH（1 人）は「1.文系」に、また理化（1 人）、理系 SG コース（1 人）、理数コース（26 人）、理数科（9 人）は「2.理系」に含まれるようデータを修正した。

問3 進路希望

問3_進路希望



度数

水準	度数	割合
1.大学進学	11366	98.0%
2.短期大学進学	38	0.3%
3.専門学校等進学	102	0.9%
4.就職	60	0.5%
5.その他	29	0.3%
合計	11595	100.0%

欠測値N 57

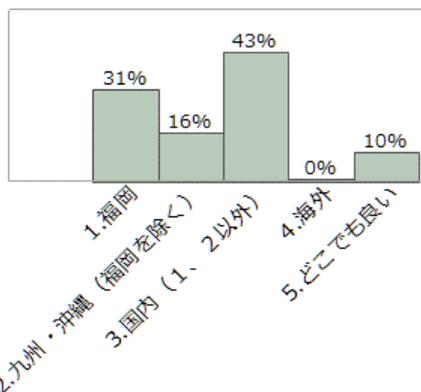
5 水準



問4以降は、問3「進路希望」で「1. 大学進学」「2. 短期大学進学」「3. 専門学校等進学」を選択した者（11,506人）のみが回答した。

問4 進学を希望する地域

問4_進学を希望する地域



度数

水準	度数	割合
1.福岡	3508	30.6%
2.九州・沖縄（福岡を除く）	1827	16.0%
3.国内（1、2以外）	4948	43.2%
4.海外	54	0.5%
5.どこでも良い	1116	9.7%
合計	11453	100.0%

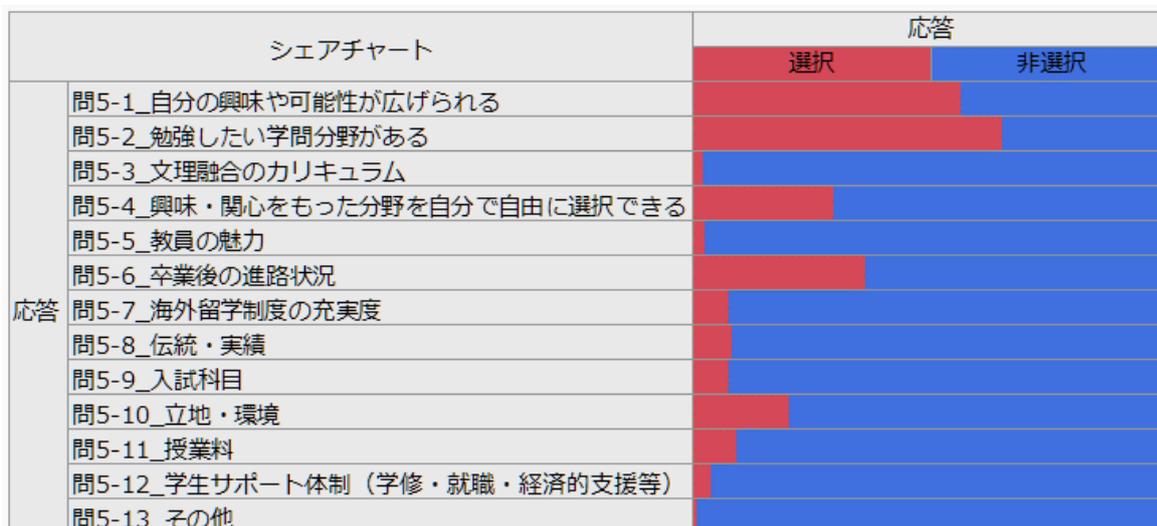
欠測値N 53

5 水準



問5 大学・学部を選ぶ基準として特に重視している点（3つまで選択可）
4つ以上の選択肢を選択した者68人を除外した。

高校生の進路選択基準



	度数 シェア	応答		
		選択	非選択	応答の合計数
応答	問5-1_自分の興味や可能性が広げられる	6429 56.2%	5009 43.8%	11438
	問5-2_勉強したい学問分野がある	7404 64.7%	4034 35.3%	11438
	問5-3_文理融合のカリキュラム	234 2.0%	11204 98.0%	11438
	問5-4_興味・関心をもった分野を自分で自由に選択できる	3382 29.6%	8056 70.4%	11438
	問5-5_教員の魅力	283 2.5%	11155 97.5%	11438
	問5-6_卒業後の進路状況	4121 36.0%	7317 64.0%	11438
	問5-7_海外留学制度の充実度	856 7.5%	10582 92.5%	11438
	問5-8_伝統・実績	921 8.1%	10517 91.9%	11438
	問5-9_入試科目	859 7.5%	10579 92.5%	11438
	問5-10_立地・環境	2305 20.2%	9133 79.8%	11438
	問5-11_授業料	1045 9.1%	10393 90.9%	11438
	問5-12_学生サポート体制（学修・就職・経済的支援等）	450 3.9%	10988 96.1%	11438
	問5-13_その他	104 0.9%	11334 99.1%	11438

問6 特に期待する共創学部の特徴（3つまで選択可）

4つ以上の選択肢を選択した者20人を除外した。

高校生が期待する共創学部の特徴

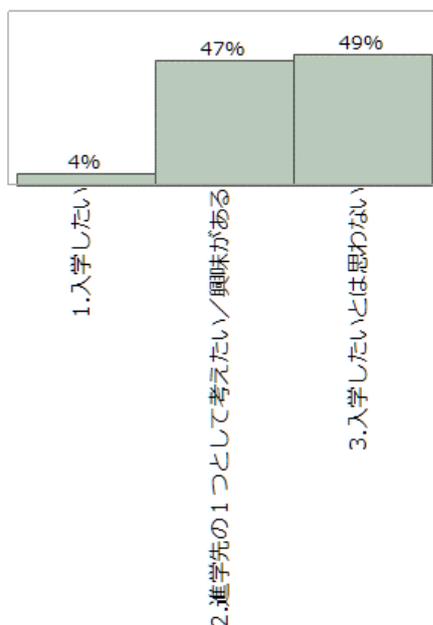
シェアチャート		応答	
		選択	非選択
応答	問6-1_人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育		
	問6-2_社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修		
	問6-3_グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育		
	問6-4_語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育		
	問6-5_海外留学を組み込んだ教育		
	問6-6_外国人留学生と共に学べる教育環境		
	問6-7_文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成		
	問6-8_異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造（共創）できる人材の育成		

	度数 シェア	応答		応答の合計数
		選択	非選択	
応答	問6-1_人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育	3595 31.3%	7891 68.7%	11486
	問6-2_社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修	2602 22.7%	8884 77.3%	11486
	問6-3_グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育	2321 20.2%	9165 79.8%	11486
	問6-4_語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育	5024 43.7%	6462 56.3%	11486
	問6-5_海外留学を組み込んだ教育	4151 36.1%	7335 63.9%	11486
	問6-6_外国人留学生と共に学べる教育環境	2714 23.6%	8772 76.4%	11486
	問6-7_文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成	2528 22.0%	8958 78.0%	11486
	問6-8_異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造（共創）できる人材の育成	2834 24.7%	8652 75.3%	11486

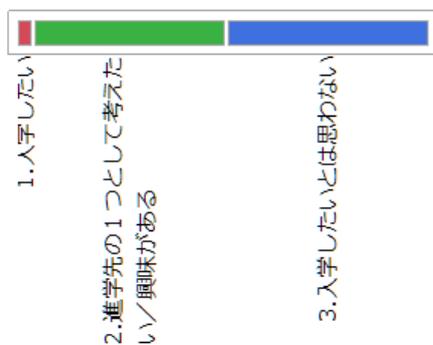
問7 入学意向

「入学したい」と回答したのは432人(4.1%)であった。また、「進学先の一つとして考えたい／興味がある」の4,985人(46.8%)も合わせると、半数以上の5,417人(50.8%)が共創学部への入学に関心を示した。

問7_共創学部が設置された場合、入学したいといますか



度数		
水準	度数	割合
1.入学したい	432	4.1%
2.進学先の1つとして考えたい／興味がある	4985	46.8%
3.入学したいとは思わない	5240	49.2%
合計	10657	100.0%
欠測値N	849	
	3水準	



2. 進路指導担当教員（高校2年生を担当）アンケート

【調査概要】

平成28年度九州大学入学者選抜試験における志願者数上位50校（福岡県：21校、九州（福岡県を除く）：19校、九州外：10校）の進路指導担当教員を対象にアンケート調査を実施した。回収率は58%（87枚/150枚、依頼時の都合上各校3枚を配布）、回答があった高等学校等の割合は76%（38校/50校）であった。

問1 特に期待する共創学部の特徴（3つまで選択可）

進路指導担当教員が期待する共創学部の特徴

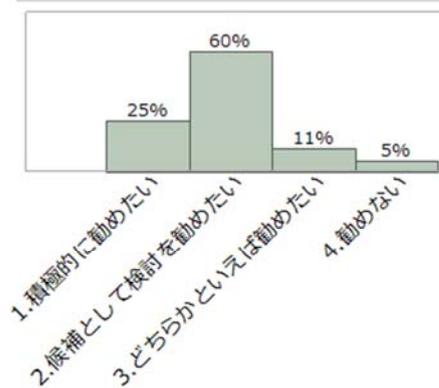
シェアチャート		応答	
		選択	非選択
応答	問1-1_人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育		
	問1-2_社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修		
	問1-3_グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育		
	問1-4_語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育		
	問1-5_海外留学を組み込んだ教育		
	問1-6_外国人留学生と共に学べる教育環境		
	問1-7_文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成		
	問1-8_異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造（共創）できる人材の育成		

		度数 シェア	応答		応答の合計数
			選択	非選択	
応答	問1-1_人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育	49 56.3%	38 43.7%	87	
	問1-2_社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修	38 43.7%	49 56.3%	87	
	問1-3_グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育	16 18.4%	71 81.6%	87	
	問1-4_語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育	26 29.9%	61 70.1%	87	
	問1-5_海外留学を組み込んだ教育	18 20.7%	69 79.3%	87	
	問1-6_外国人留学生と共に学べる教育環境	12 13.8%	75 86.2%	87	
	問1-7_文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成	38 43.7%	49 56.3%	87	
	問1-8_異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造（共創）できる人材の育成	40 46.0%	47 54.0%	87	

問2 生徒に進学を勧めたいと思うか

進路指導担当教員の25.0%が共創学部への進学を「積極的に勧めたい」と回答した。また、「候補として検討を勧めたい」(59.5%)と、「どちらかといえば勧めたい」(10.7%)も含めると、95.2%が進路として本学部への進学を勧めることに前向きであった。

問2_共創学部進学を生徒に勧めたいか

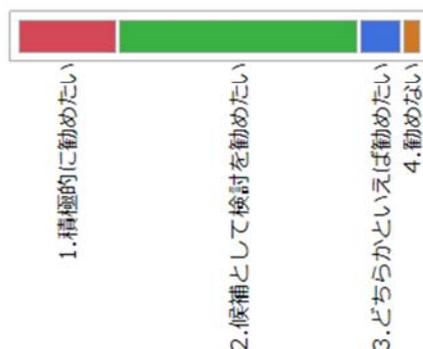


度数

水準	度数	割合
1.積極的に勧めたい	21	25.0%
2.候補として検討を勧めたい	50	59.5%
3.どちらかといえば勧めたい	9	10.7%
4.勧めない	4	4.8%
合計	84	100.0%

欠測値N 3

4水準



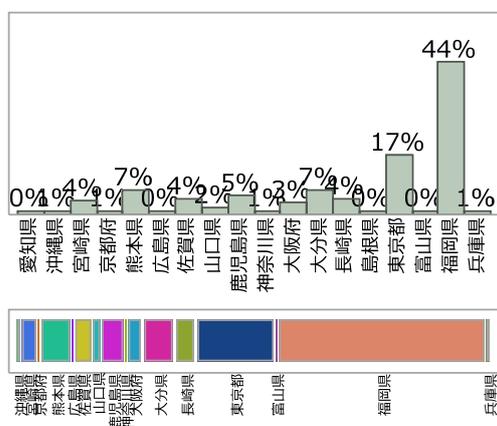
3. 企業採用担当者アンケート

【調査概要】

平成 27 年度（2016 年春）卒業生の就職実績上位 100 企業・自治体等と、九州経済連合会の会員企業（単純な重複や、本社と九州支社と言った重複もあり得る）の採用担当者を対象にアンケート調査を実施した。回答率は 36.2%（372/1024 企業・自治体等、ただし重複のため 368 企業・自治体等と社名未記入 1）であった。

問 2 本社（機関）所在地

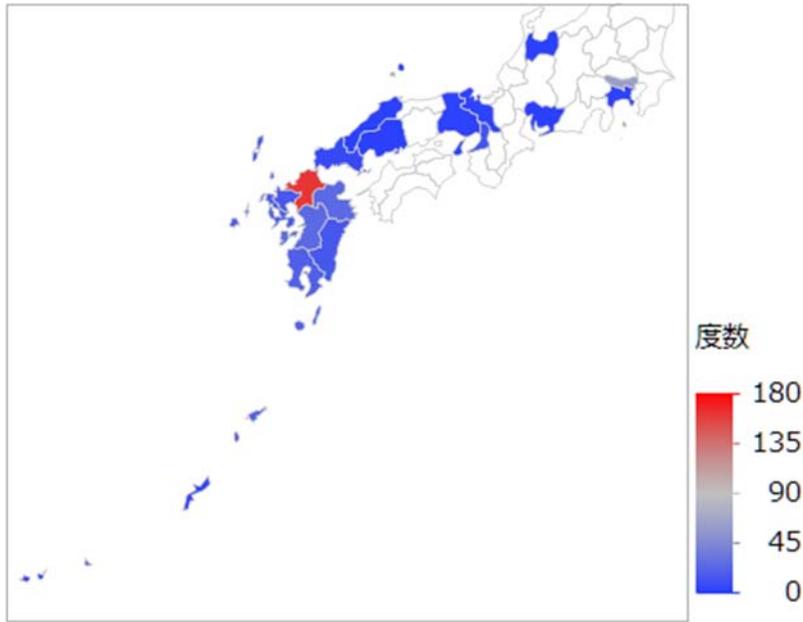
問 2_本社（機関）所在地



度数

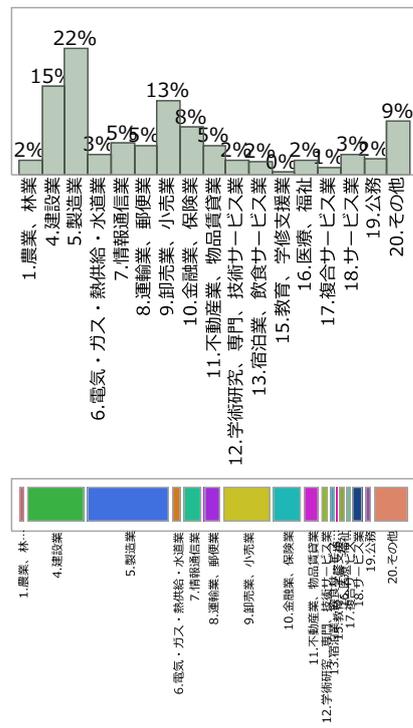
水準	度数	割合
愛知県	1	0.3%
沖縄県	2	0.5%
宮崎県	14	3.8%
京都府	2	0.5%
熊本県	25	6.8%
広島県	1	0.3%
佐賀県	15	4.1%
山口県	6	1.6%
鹿児島県	19	5.1%
神奈川県	2	0.5%
大阪府	12	3.2%
大分県	25	6.8%
長崎県	16	4.3%
島根県	1	0.3%
東京都	62	16.8%
富山県	1	0.3%
福岡県	164	44.3%
兵庫県	2	0.5%
合計	370	100.0%
欠測値N	2	

18 水準



問3 主たる業種

問3_主たる業種



度数

水準	度数	割合
1. 農業、林業	8	2.2%
4. 建設業	55	15.1%
5. 製造業	79	21.7%
6. 電気・ガス・熱供給・水道業	12	3.3%
7. 情報通信業	19	5.2%
8. 運輸業、郵便業	17	4.7%
9. 卸売業、小売業	46	12.6%
10. 金融業、保険業	29	8.0%
11. 不動産業、物品賃貸業	17	4.7%
12. 学術研究、専門・技術サービス業	8	2.2%
13. 宿泊業、飲食サービス業	7	1.9%
15. 教育、学修支援業	1	0.3%
16. 医療、福祉	8	2.2%
17. 複合サービス業	4	1.1%
18. サービス業	12	3.3%
19. 公務	9	2.5%
20. その他	33	9.1%
合計	364	100.0%

欠測値N 8

17 水準

問4 特に期待する共創学部の特徴（3つまで選択可）

4つ以上の選択肢を選択した1企業を除外した。

企業等が期待する共創学部の特徴

シェアチャート		応答	
		選択	非選択
応答	問4-1_人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育		
	問4-2_社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修		
	問4-3_グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育		
	問4-4_語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育		
	問4-5_海外留学を組み込んだ教育		
	問4-6_外国人留学生と共に学べる教育環境		
	問4-7_文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成		
	問4-8_異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造（共創）できる人材の育成		

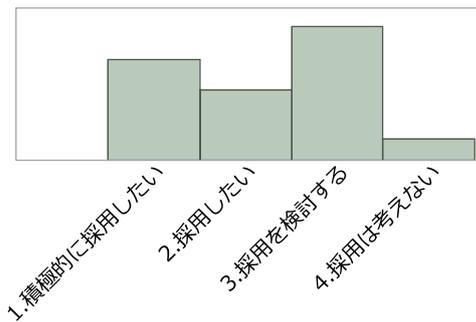
		度数 シェア	応答		応答の合計数
			選択	非選択	
応答	問4-1_人文社会科学、自然科学及び生命科学の全ての学問分野の混合・融合教育	64 17.3%	307 82.7%	371	
	問4-2_社会的課題を発見し、他者と協力して課題解決に取り組む学修	256 69.0%	115 31.0%	371	
	問4-3_グループワークや少人数による学生の主体的学修を重視した教育	98 26.4%	273 73.6%	371	
	問4-4_語学力やコミュニケーション能力が身につく英語教育	80 21.6%	291 78.4%	371	
	問4-5_海外留学を組み込んだ教育	28 7.5%	343 92.5%	371	
	問4-6_外国人留学生と共に学べる教育環境	34 9.2%	337 90.8%	371	
	問4-7_文化や価値観の違いなど問題の背景を理解し、解決手段を導き出せる人材の育成	193 52.0%	178 48.0%	371	
	問4-8_異なる観点や知見の融合を図り、他者と協働して新たな物事を創造（共創）できる人材の育成	267 72.0%	104 28.0%	371	

問5 卒業生の採用意向

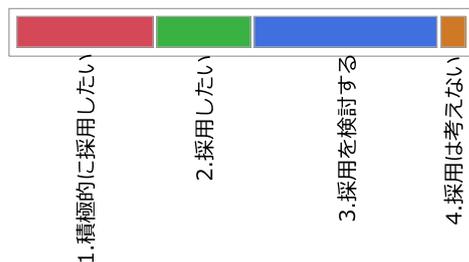
31.2%の企業等が共創学部の卒業生を「積極的に採用したい」と回答した。「採用したい」（21.4%）「採用を検討する」（41.4%）を合わせると、94%の企業等が、本学部が輩出する人材の採用に興味を抱いている。

「採用は考えない」と回答した企業等（6%）の理由の大半は、企業側の事情（現在新卒採用を考えていない、業種・職種の特异性のため等）によるものであった。

問5_本学部卒業生の採用についてどのようにお考えですか



度数		
水準	度数	割合
1. 積極的に採用したい	114	31.2%
2. 採用したい	78	21.4%
3. 採用を検討する	151	41.4%
4. 採用は考えない	22	6.0%
合計	365	100.0%
欠測値N	7	
4 水準		



自由記述欄（典型的な記述）

○「積極的に採用したい」グループの典型的な記述

「問4の内容を自ら積極的に活用して会社に貢献しようという気持ちを持つ、前向き、主体的に活動しようとする学生の育成に期待します。」

「(中略)まさに高等教育を受けた、文系・理系両方の考え方や方法論を身に付け、課題解決のできるグローバルな人材は待望の社会人・企業人となると思います。どのようなプログラムが組みられるのかわかりませんが、よりバランスの取れた有能な人材の育成を多いに期待致します。」

「多様な価値観を持ち合せ積極的に社会の問題・課題に取り組む又は、発信する。チャレンジ精神にあふれる人材を期待し私達も積極的に採用させて頂きたいと存じます。」

「共創学部の新設により、さらに高度なレベルの人材育成が実現することとなり、九州大学が九州と海外の架け橋となる優秀な人材を輩出することを期待しております。」

「劇的に社会が複雑化、多様化する中で、個人も企業も適応能力が求められています。その様ななか、学部間を横断し自ら課題を発見し、他者と協働して課題解決やイノベーションの創出できる人材の育成を目指しておられる『共創学部』に大いに期待しております。当行の採用においても、複眼的視野と柔軟な発想を持った人材を求めている所です。」

「当社は新しい金融ビジネスに挑戦していますが将来の担い手となるべくポテンシャルを有する広い視野と自主性を持った前向きな学生を採用したいと思っていますので共創学部で大いに期待いたします。」

○「採用したい」グループの典型的な記述

「幅広い学問分野を学び、分野を横断した発想で主体的に課題を設定し、他者とコミュニケーションを取りながら、解決に取り組む人材を育成されようとする貴学のチャレンジに期待しています。」

「グローバル化した社会に於いては、多様な知識を有した自立した人間の育成が必要。共創学部では、諸外国との交流も含め自分の意見をしっかりと発信できる人材を育成していただきたい。同時に問題発掘型の人材 責任感の強い人材の育成を望んでいます。期待しています。」

「事業のグローバル化や多様化が進む中で、企業は常に変化し続けることを求められています。おそらくほとんどの企業では、自らイノベーションを創出し続けることのできる人材確保したいというニーズがあると思いますので、今後の企業のチャレンジに寄与できる人材を育てていただくことを期待しています。」

「共創学部の構想に強く共感いたします。複雑化する社会課題を解決するために新しいフレキシブルな発想法が求められるこれからの時代に合致した構想だと思います。社会解決課題に留まらずソーシャルグッドを『創造』する人材育成に期待します。カリキュラム内に、行政や企業という実際に社会課題に向き合ってるプレイヤーとの交流・協働を含ませるのはいかがでしょう。弊社も（中略）微力ながらできるだけのご協力をさせて頂きたいと思います」

○「採用を検討する」グループの典型的な記述

「地域(特に中小都市や農山村)と、それを支える中小企業や産業(特に林業農学)と、九州大学をつなぐ存在となって欲しい。その為には教員は学生も積極的に現場で出てくる…そんな学部になってほしい」

「・将来的に組織のリーダーとなることを意識することをカリキュラムに組み入れて欲しい。・専門分野、卒論、ゼミなど従来のカリキュラムを組み入れて欲しい 特に文理融合となると、自分の専門が何かあいまいになることが危惧されるため、卒論やゼミを経験することで、軸となる専門分野をもっていただきたい。」

「患者として、アジアを中心に外国人の方が多く来院するようになっています。本格的な受入には語学スキルはもちろん、文化・価値観の理解など現在いる人材のみでは高いハードルがあります。そういう点で力になって頂ける人材が育つことを期待しております。」

「他文化、価値観の相違、異なる観点や知見の融合等（問4部分）に代表される他者との協働・解決・創出は大変素晴らしいと思いますが、その根底にある『自己の同一性の確立』と言った部分の強化、具体的に言えば、日本文化、日本人としての誇り、を強める内容教育も同時に行って頂く事を期待申し上げます。」

「弊社では（中略）地域に密着した活動を実施しております。今後も地域に根ざした人材を集めたいと思いますのでよろしくお願いします。」

「・起業して間もないが、卒業生が出るころには、受け入れられる企業にしたい。・カリキュラムの中に地域企業や諸団体への経営参加（コンサルタント等の専門家指導）などの実施体験が

あると、想像力を伴った人材育成に繋がるのではと思うがいかがだろうか。」

「福岡の地域性や都市として成長し続けてはいるものの高齢化が増加している特殊性を理解し、弊社のような都市インフラを運営する会社が社会から求められているものや、その解決につながる知見を備えた人材を育成していただきたい。」

「卒業生の人材能力が計りにくい学部であるように感じます。国家資格の取得、留学等をさせる他のユニークなカリキュラムの設定により、採用側へのアピールになるのではと思います。」

○ 「採用は考えていない」グループの典型的な記述

「現状、純粋な理系(工学系)のみの採用枠しかないため。技術職以外の新卒採用が発生した際は文理両方に強みを持つのが生きると感じます。」

「中規模の外航海運会社として、外国人対応も多くグローバル人材が育ってゆくことは歓迎なのですが海上技術者中心の陣容のため、なかなか採用の機会がございません。」

「新卒者の採用計画は、現在ありません」

「採用は東京本部での判断となります」